



03 福祉将棋・囲碁の会

# 将棋と囲碁でふれあうココロ

18年の歴史を誇る「福祉将棋・囲碁の会」。将棋と囲碁を、福祉活動に活かすという、全国的にも珍しい団体です。

「パチッ!」。平日の昼間、第一保育所2階の一室から、なにやら音が聞こえてきます。その正体は「福祉将棋・囲碁の会」の皆さんが将棋と囲碁を指している音でした。

この会は18年前から活動を行っており、現在会員は96人。最高年齢はなんと88歳。将棋・囲碁をすることで頭を使い、認知症予防にもなり、

**好きなことをすることが人の役に立っている**

子どもたちでも楽しめるように、やさしくルールなどを説明。積み将棋など、シンプルな遊びも行われ、将棋や囲碁を身近なものに感じてもらう工夫をしています。

02 三芳スケッチ

# 余暇を人のために活用するココロ

網戸や障子の貼り替えや、庭木の剪定などのお手伝いをするボランティア「三芳スケッチ」。現在18人が活動しています。



三芳スケッチの皆さん(左)と、長く伸びた枝を切る作業をする様子(右)。楽しみながら活動することをモットーに、体を動かすことで健康増進に役立っています。

「本職の人がやれば、一人か二人でできるような作業かもしれませんが、私たちは参加できる人、全員で作業します。お手伝いをするだけではなく、談笑し、楽しみながら作業することを大切にしています。難しいことをすると楽しみが減るので、簡単な作業だけにしています。」

三芳スケッチの皆さんのほとんどは退職していますが、この活動を行うことで、余暇の有効利用に繋がっています。さらに、庭掃除などは体を使うため、よい運動となり、仲間との会話も作業の話が中心で、共通

昨年、三芳町社会福祉協議会の養成スクールで、網戸や障子の貼り替え方や、カンナの使い方などの講習が行われました。そこで得た能力を、地域の人たちのために活かせるか、と思ったことがきっかけで発足した「三芳スケッチ」。現在18人が困っている人の「助っ人」として活動しています。

「本職の人に比べれば不慣れですが、未熟な人は上手な人に教えてもらい、支え合いながら楽しくやっています。」と会長の菅原さん。

主なお手伝いは、庭木の剪定・雑草取りや、網戸、障子の貼り替えなどの簡単な作業。

「孫に会う機会が少ないので、子どもと触れ合えることができ、楽しいです。先日、散歩をしていたら、以前教えた子どもが私を覚えていてくれて、「こんにちは」とあいさつしてくれました。私のことを覚えていてくれて、嬉しかったです。」

さらに、集まった人たちと会話を楽しむことでストレス発散にもなっています。

皆さんこの会が大好きで、「仕事をとつくにやめているから、日中は暇なんです。こうして同じ趣味を持った仲間が集まる場所があって、助かります。みんな、会がある日を「ココロまち」にしているんです。土砂降りの雨が降った日、誰も集まらないと思ったら、晴れた日より多い人数が集まったんですよ(笑)。」

自分たちの好きな将棋・囲碁をすることが、地域活動やボランティアに繋がっている、この会。取材日は、第一保育所の子どもたちに、会の皆さんが将棋と囲碁を通じて、触れ合う交流の日でした。近所付き合いが少なくなってきた現代、世代を越えた交流が、見守りにつながっているといえます。最後に、ココロ温まるエピソードを参加者が教えてくれました。

「楽しみながらやっていることが、結果として人のためになっているのだと思います。感謝されることで充実感と嬉しさを感じます。相手が嬉しいと私たちも嬉しいです。」

楽しみながら、誰かの役に立ちたい。それを可能としているのは、三芳スケッチの皆さんが持つ、地域のために何かの力になりたいと思う「温かいココロ」があるからではないでしょうか。

の話題で盛り上がる事ができるのだそうです。

**相手が嬉しいと私たちも嬉しい**

interview

男性ボランティアグループ「三芳スケッチ」会長



菅原 力さん

趣味は日曜大工。体力には自信があり。お孫さんの話をするときにはこぼす笑顔が印象的。

仲間との会話が楽しいです

庭の剪定や雑草取りなどは、思いのほかたくさん体を動かすので、いい運動になります。同じ気持ちの仲間が集まれば会話が弾み、声を出すことがストレス発散にもなります。人助けもできますし、自分たちにとっても健康増進になるというメリットがあります。いくつになっても人から喜ばれるというのは気持ちがいいものです。ずっと継続できるように、無理をせず、楽しく活動をしていきたいですね。

interview

「福祉将棋・囲碁の会」会長

大貫 豊彦さん

先日行われた入間東部地区の囲碁将棋大会で、前人未到の5連覇を達成。アマ6段格の腕前をもつ。



「楽しむだけではなく、ココロは福祉に向け、人との交流を深めていきたい」

高齢化が進む現代、老人福祉・健康維持などを考えると、この会の存在は、私たち高齢者にとって大変意味のあるものだと思います。昨年は竹間沢小学校に出向き、孫のような子どもたちとの交流も深めました。福祉活動に視野を置きながら、これからも将棋・囲碁を楽しく続けていきたいです。



第一保育所の子どもたちと、将棋・囲碁の会の皆さん。子どもたちも、この会の皆さんと触れ合う日をいつもココロまちにしています。

